

第 17 回 長野市中心市街地活性化基本計画評価専門委員会 議事録

日時 平成 27 年 11 月 12 日(木)

午後 3 時から

場所 もんぜんぷら座 6 階 会議室 601

出席委員 7 名

市川委員、金澤委員、越原委員、渡辺委員、石川委員、高木委員、樋口委員

1. 開会

2. 都市整備部長あいさつ

3. 委員長あいさつ

4. 諮問

5. 議事

(1) 第二期 中心市街地活性化基本計画に位置づける事業の進捗状況について

<資料1> (説明者:事務局)

(委員)

・資料の 22 番「県庁緑町線」について、目途・見通しはどうか。この事業は、後町小学校の跡地問題とか、セントラルスクエア問題とか、いろんな意味で影響があると思うが。

(事務局)

・県庁緑町線の事業はこれまで、整備手法として「セントラルスクエア」の整備利用と一体の中で検討をしてきたが、現在では、沿線地権者と協議を進め、道路整備を進める方向で進んでいる。

(委員)

・セントラルスクエアも民地なので、一体で出来ることが一番いいのかもしれないが、道は道として早めに進めていかないと先に進んでいかない。市街地の道路とすれば、かなり重要な道路なので、「道は道」と割り切って次回の御開帳までに、優先的にやっていただけるとありがたい。

(事務局)

・ご意見があったことを、事業課に伝えたい。

(委員)

・次回御開帳までに整備をするということか。

(事務局)

・次回の御開帳までには、いいお話が出来るようにしたい。

(委員)

・セントラルスクエアも、何か動きがあるのか。引き続いて、やっているのか。

(事務局)

・担当課で、引き続き進めている。

(委員)

・資料中で黄色表示の事業は「完了」とのことだが、14 番の野外彫刻事業も終わるということか。

(事務局)

・事業自体は続くが、中活計画エリア内での設置は26年度までということで、事業課の方から聞いている。

(委員)

・この事業も市庁舎とか必要な所に設置していくのは良いが、必要と思えない場所やきれいに見えない場所に設置されているものがたくさんあるように感じる。この計画とは別だが、城山公園が今度信濃美術館の建て替えに伴って、あそこを長野市内の文化ゾーンとして、県と市で公園を見直していくと思うが、彫刻を置くにしても、本当に必要とされる良い場所、意味がある場所に置いてほしい。今後も続けるなら、有効な設置場所・効果的な作品選定を是非お願いしたい。

(事務局)

・いただいた御意見は担当課へ伝えたい。

(委員)

・目標②の「住みたくなるまち」について、資料②で実績にあがっているのは、基本的に全部マンションである。もちろんマンションでもおかしくないという街はあるが、既存住宅など遊休不動産の活用をもっと真剣に考えなければいけないというエリアもあるはず。しかし実績として、マンションだけの話で終わってしまっている。それで本当に「長野の住みたくなるまち」として良いのかという点で疑問があり、違う切り口があった方が良いと感じる。マンションを購入出来る人に来てもらおうというのは良い、お金は無いが長野に住みたいとか、マンションを買っている人達の年齢層とか、そうしたことも調べて、所謂、子育て世代が住んでいるのか、もっと高齢者が住んでいるのか、ということもあるし、長野の今後の活性化を考えると、個人で何かお店をやりたいとか、芸術作品を作りたいという人を、積極的に誘致する方法もあるだろうし、ただマンション建てて人がたくさん入ったから、良かったというのは、ちょっと違うと思う。

(委員)

・リノベーション物件に、若い人やアーティストが、かなり入ってきていることは事実で、この説明には大きなものとしてマンションが出ていると思うが、実質、大門辺りは、かなり移り住んでる人がいて、わずかながらも増えている。そうした実績の表記もあると良い。数字の拾い方や表現について工夫してほしい。

(事務局)

・リノベーションしてそこへ移って商売を始めたとか、工房を始める方が、約60数件。ここ3年では、30数件増えており、そうした流れが出来てきている。ご指摘のとおり、そうした実績も評価に記載するようにしたい。

(委員)

・中心市街地に住んでもらうことを考えていくには、今住んでいる人たちの年齢層の状況を知ることは、大事だと思う。若年夫婦層が多いのか、割と高齢に近い層が多いのか、ターゲット層によってやり方も変わってくる。人数だけでなく、そうした視点での把握も必要だと思う。年齢層などからの調査はできないか。

(事務局)

・数値目標検証のために、住民登録上での中心市街地エリアのデータは取っている。過去にも、中心市街地エリア地区別の年齢別推移の資料を作成したこともあ

り、おおよその年齢構成はつかむことが出来ると思う。ただ、新しく出来たB-1のマンションだけの状況という把握できない。再開発の方で確認できれば良いが、おそらく困難と思われる。なるべく把握できるように努めていきたい。

(委員)

・資料④、34番の遊休不動産活用事業だが、資料にはまち歩き15回程度とか意見交換会と書いてあるが、進んでいるのか。

(事務局)

・まちづくり長野が事務局の長野市中心市街地活性化協議会を主体としてリノベーションや移住に取り組んで実績を挙げている皆さんにプロジェクトチームに入ってもらい進めている。プロジェクトチームの運営の仕方や内容の検討で一定以上の時間を要したため、まち歩きの実績もまだ無いが、12月中旬から週の金曜、土曜2日実施する計画で年度内に都合16回開催する予定になっており、鋭意進めている。

(2) 数値目標に対する平成27年度の結果について

＜資料2＞（説明者：事務局）

(委員)

・歩きたくなるまちの歩行者通行量で南石堂町、末広町というは、デッキの通行量は数えてないということか。

(事務局)

・入れていない。

(委員)

・それで落ち込んでいると、しかし実際に人は通っていますよね。

(事務局)

・駅前は今まで東急側に調査地点があり、今のロータリーの如是姫側はポイントの設定をしていない。ただ、今年は自由通路ができて、人の流れも変わっている。

(委員 A)

・いままでは計測していないとのことだが、現実には上の通路は結構歩いている。せつかく整備されたので、できれば入れてもらった方が良いと考える。それから権堂は、イーストプラザのおかげで、大通り側が伸びている。やはりに投資すれば、伸びると思ったが、アーケードの方は横ばいかやや落ちている状況。まちづくりセンターを閉じた影響もあって致し方ないという感である。

(委員 B)

・去年の実績は、荒天で特異値と整理されている。今年が変わらなかったというのはどう理解したらよいのか。南千歳のポイントで7000人から落ちているのが効いているということはあると思う。

(委員 C)

・中央通りで仕事をしていても通りを歩いている人は減っていない感じがします。

(伊員 B)

・それではやはり調査地点から外れた、新しくペDESTリアンデッキができたおかげで人の流れが変わったということか。

(委員 D)

- ・しかし、新幹線で人も増えているはずで、かなり増えているような気はするが、その割りにここの数字は上がっていない。

(委員 B)

- ・進ちよく状況の資料 1 でも、ハード系のものが多く終わっている。最終的に目標を上げるように整備しているはずだが、思ったほど上がっていない、数値としては下がったまま。中央通りは本当に良くなった、でも道が良くなっただけでは人は来ず、その周りの商店が頑張っって魅力のある店にならないと駅で満足して帰ってしまうというのが今の現状。だから、ソフトの面で何をしていくかということの本気で考えていかないといけない。

(委員 D)

- ・通行量の南千歳が一番伸び悩んでいるところには、新幹線を降りて歩いている人が増えているというのが実感なのでペDESTリアンデッキの数値も加えてほしいし、もう一つ④のもんぜんぷら座と生涯学習センターの利用者数で、ここに権堂の市民交流センターができて、こちらに分かれて流れているという感じがあるのでこちらの数値の補正を検討してほしい。

(事務局)

- ・あくまでも今の計画では数値の取り方は「もんぜんぷら座と生涯学習センターの利用者数」で、これだけ目指すとなっている。通行量もそうである。ご意見のとおりので扱いで良いかどうかは、最終的に国と相談し、良ければ修正していきたい。

(委員)

- ・ちょうど今日の新聞に出た権堂の再開発は、今後中活の事業に入ってくるということか、今のこの中にあるのか。

(事務局)

- ・昨日、要望があったところで、要望の主旨がそうであるということである。要望を受けてどうして行くかは、今後検討していきます。

(3) その他について

<評価専門委員会委員の任期改選について説明> (説明者:事務局)

6. 閉会